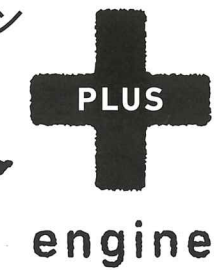




緑エンジン



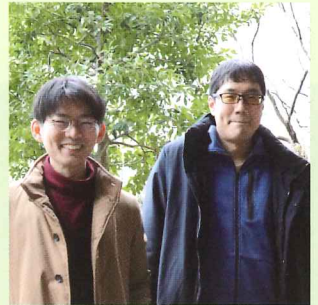
2020.3.1
vol.23

地域デビューのススメ

Coder Dojo 横浜港北ニュータウン

糟谷 勇児さん

※Coder(コーダー)とは…プログラムのコードを書く人のこと



(左)一緒に活動する遠藤さん(右)糟谷さん

小学生の時、学校のコンピュータ部に入った。中学校時代は、CGソフトを使って3Dの絵を描いていた。当時は将来の夢No.1がゲームクリエイターで自分もなりたいと思っていた。大学では情報系に進み、就職してからは、世界で初めてデジカメのペット撮影モードのプログラムを作った。今は転職し、AIで名刺管理する会社へ。以前の会社では、皆でプログラミングをするサー

クルを主宰していた。徐々にメンバーが減っていき、子ども世代に教える活動にシフトしていった。自分の子どもにもやらせたいと思い、定期的な開催を模索していたところCoder Dojoを知る。Coder Dojoは、無料でボランティアが主導する地域の子どもの向けプログラミング道場で、2011年にアイルランドで始まり、世界中に道場がある。サークル仲間と一緒に『Coder Dojo横浜港北ニュータウン』を始めた。

— 普段心掛けていることは何ですか？活動では、子どもの自由な発想を大切にしている。最初の1回は同じテキストと一緒に進めるけれど、その先は自由に進めてもらう。子どもは、今好きなことをプログラムにしたいという気持ちが強く、飲み込みが早い。Coder Dojoは毎月1回開催で参加は事前申込みも受け付けますが、突然参加も可。楽しい場ならよいと思っているので気軽に来てほしい。基本的に来るもの拒まず去るもの追わずの精神。このぐらいがいい塩梅。自分も大変にならないよう

楽しんでやりたい。Coder Dojoでは、最後にプログラムの発表をする。最初は恥ずかしがる子どももいるが一度発表し始めると楽しんで発表してくれる。この活動を通じて子どもたちの自己肯定感を育てたいと思っている。

— これからデビューする人にメッセージを立ち上げ時にクラウドファンディングに挑戦したら地元企業が出資してくれた。地域で活動すると地域のいろんな人が応援してくれる。地域が支援してくれる。また、自分の子どもが小さいうちに活動を始められると思う。特に子どもに関わる活動は、自分の子どもでも試したり、子どもを連れて参加すると参加者が少なくとも1人いるから開催できないということもない。仕事と活動の分野が同じなので、現在の職場も色々助けてくれる。休日に活動を通じ、仲間と会えるのはリフレッシュにもなっている。



■Coder Dojo 横浜港北ニュータウン参加のお申込はQRコードから

第23回 つづき人交流フェスタ

つづき人交流フェスタは都筑区民活動センターに登録している団体や人材が、区民の皆さんに日頃の活動を紹介するイベントです。

ワークショップ(事前申込不要・一部有料)
子どもから大人まで楽しめる内容盛りだくさん!
[日時]令和2年3月28日(土)29日(日)
[会場]都筑区役所1階区民ホール



交流カフェ(有料)
ハンドドリップの淹れたてコーヒーをお楽しみいただけます。
[日時]令和2年3月28日(土)29日(日)
[会場]都筑区役所1階区民ホール



パネル展
市民活動、生涯学習団体、プログラムバンク登録者が活動の内容を展示します。
[日時]令和2年3月25日(水)-30日(月)
[会場]都筑区役所1階区民ホール



一日活動体験(事前申込不要・一部有料)
期間中に都筑区内で開催される市民活動・生涯学習・サークル活動に区民の皆さんが「一日体験参加」することができます。福祉・音楽・子育て・スポーツ…いろいろな分野の活動をこの機会にぜひ体験ください!
[日時]令和2年3月1日(日)-29日(日)
[会場]都筑区内各所

全てのイベントを通じてスタンプラリーを同時開催。3つ集まったら都筑区民活動センターで記念品をプレゼント♪

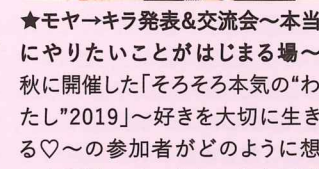
第4回 WOMEN'S MEET UP FES in 都筑

女性たちが経験や才能、スキルを活かして、できること、やりたいことを見つけ、今よりもっと地域の中でキラキラと活躍すれば、女性だけでなく、多くの人たちに沢山の笑顔が広がっていくはず…そんな素敵な未来のために、輝く都筑ウーマンを応援しています!「WOMEN'S MEET UP FES in 都筑」はそれぞれの目標を見つけ活動している女性たちがつどい、学び、発表し、交流する場をつくります。

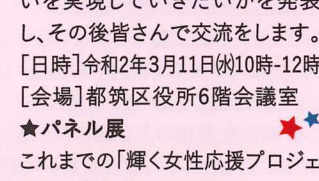
★講演会・「習慣」が人生を動かす
～それは本気で叶えたいこと?～
毎日の習慣をほんの少し変えるだけで、人生が面白いように展開していくという素敵なお話をさせていただきます。
[講師]川田治さん
(女性起業家専門コーチ)
[日時]令和2年3月17日(火)10時-12時
[会場]都筑区役所6階会議室
[定員]100名・無料
(男女・年齢不問・先着順・保育有)



★モヤ→キラ発表&交流会～本当にやりたいことがはじまる場～
秋に開催した「そろそろ本気のわたし」2019～好きを大切に生きる♡～の参加者がどのように想いを実現していきたいかを発表し、その後皆さんで交流をします。
[日時]令和2年3月11日(木)10時-12時
[会場]都筑区役所6階会議室



★パネル展
これまでの「輝く女性応援プロジェクト」5年の歩みをご紹介します。
[日時]令和2年3月12日(金)-3月18日(木)
[会場]都筑区役所1階区民ホール



特集
現役世代の男性が
まちを元気にする!

もともと同じ学校でおやじの会活動をしていた親達が、子どもが学校を卒業してからも集まって活動する「OBおやじの会」。普段は卒業した学校の環境整備を手伝っていますが、最近、休耕していた畑を借りて農作業を始めました。来年の収穫を夢見ながら、畑を耕すため、この日集まりました。巣立っていった子ども達が帰って来なくなる街を目指して「野菜づくり」だけでなく「まちづくり」もしています。
(詳細は特集記事参照)

- contents -----●
- 特集 現役世代の男性がまちを元気にする!
- 地域デビューのススメ
- つづき人交流フェスタ
- WOMEN'S MEET UP FES in 都筑
-



何かを始めるきっかけマガジン「緑エンジン」 2020年3月 第23号
編集/企画: 都筑区民活動センター
発行: 都筑区役所地域振興課
問い合わせ
都筑区民活動センター
横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-1 都筑区役所1階
☎ 045-948-2237
✉ tz-katsudo@city.yokohama.jp

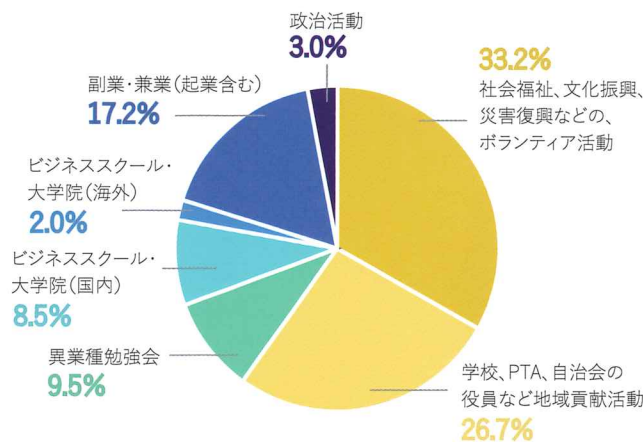


「働き方改革関連法」が2019年4月より施行され、以前に比べると現役世代も平日に早く帰宅する人が増えてきています。仕事以外の時間が増えたことに加え、仕事に対する価値観の変化、兼業・副業志向、「朝活」「夜活」などの社外活動への関心の高まりから、現役世代の男性で社外コミュニティに属する人も増えてきました。
今号では、社外コミュニティの中でも特に“地域コミュニティ”で地域貢献活動やボランティア活動に携わる人を取材し、活動を始めた理由やその魅力、仕事に与えた影響などを探りました。
2020年から数年、日本は国際的メイベントが続き、社会貢献活動の契機になるだろうとも言われています。ぜひあなたも社会参加の一歩、踏み出してみませんか？

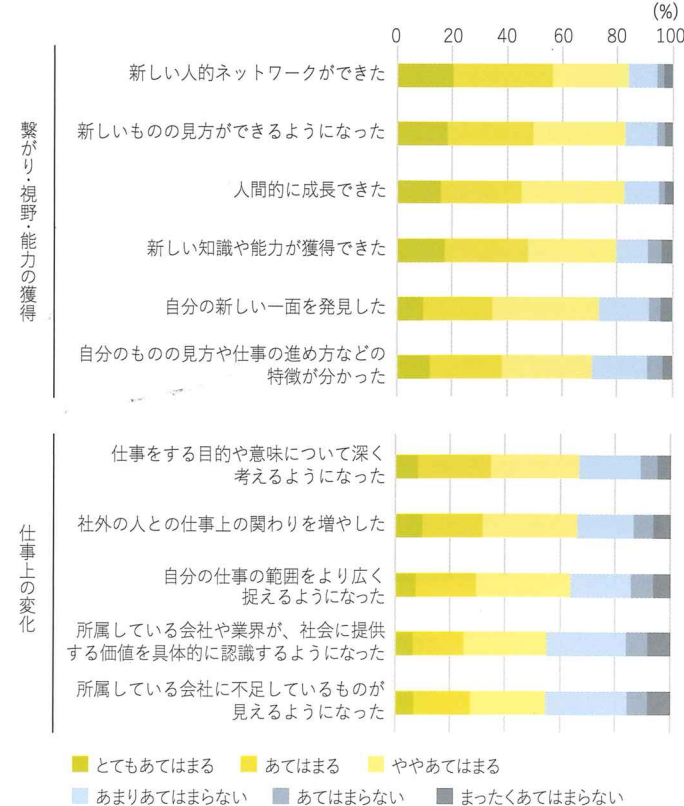
特集 現役世代の男性がまちを元気にする！

データからわかる現役世代の社外活動

社外活動で最も熱心に取り組んだ活動

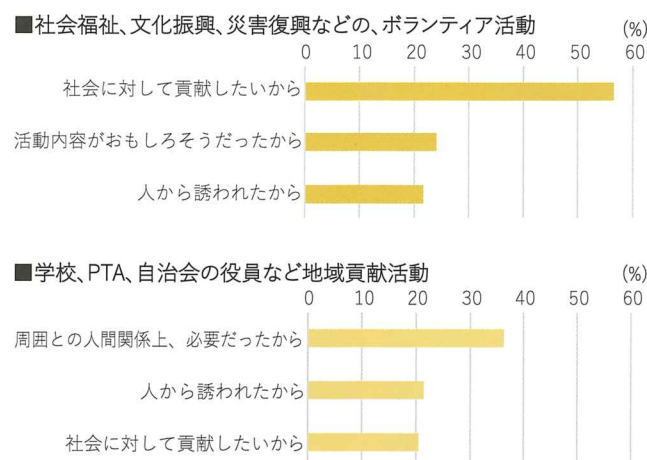


社外活動に参加したことによる変化



出典：株式会社リクルートマネジメントソリューションズ
「越境活動実態調査」(2016年9月実施)より一部抜粋・加工して作成
調査対象：正社員として勤務している会社での就業以外に、社外活動を行った経験のある人401名

活動を始めた理由(上位3つまでの選択結果)



活動によって得たものをどのように本業に生かそうと思うか

<自由記述回答結果をもとに分類・一部抜粋>

活動	人的ネットワーク 知識・能力などが生きる	もの見方や考え方が 生きる
ボランティア活動	SEなので多様な業種、業務の知識があることは強みになる(NPOプロジェクト参加・49歳・男性)	口先だけでない行動力(川の清掃・47歳・男性)
地域貢献活動	色んな考え方があることが分かりそれをまとめられる能力が身についた(自治会役員・41歳・男性)	職場を全体的に見るようになった(自治会役員・48歳・男性)
	本業で業務上で聞く他業界よりも、会社から一歩外に出て、プライベートで知り合う方々と本音で他業界のことを知るの貴重な体験。本業のIT事業におけるスパイスとして生かせるものと思います(PTAでのイベント企画運営 44歳・男性)	

卒業しても「みんな」と一緒に“OB”おやじの会を楽しむ

茅ヶ崎中学校OBおやじの会

代表 中野義彦さん(58歳)



1.竹刈りの作業に参加した現役とOBのおやじ会のメンバー。いつでもメンバー募集！現役世代がどんどん参加して活性化できるよう、新しい人も入りやすい雰囲気づくりをみんなで大事にしている。 2.中野さん 3.「破壊の中野」と仲間からかわれるように、ハンマーをふりおろして、竹を割る作業をする姿がダイナミック 4.踏み心地のいいランニングロード

茅ヶ崎東小学校おやじの会の仲間を中心に中学でも子どもたちのために何かできないかと茅ヶ崎中学校おやじの会を立ち上げた中野義彦さん。「通学路が竹藪でうっそうとしていて、暗くなると怖い」という中学生になった娘の話から、学校周辺の竹林の保全を始めた。子どもが卒業した今でもOBの会代表として活動している。続けていく理由を知りたくて、活動日にお話を伺った。

みんなでつくるランニングロード

リヤカーを押して現役おやじの会とOBメンバーが向かう先は、中学校裏手のマンションの竹林。今日の活動は、竹チップ用に刈った竹を粉砕機にかけやすいように竹割りする作業だ。中野さんが代表として仕切ると思いきや、使う道具や作業分担をみんなで試行錯誤しながら進めていく。「取材、本当に中野さんでいいの〜?(笑)」と軽い冗談も出る、そんな会の雰囲気居心地の良さを感じる。竹チップは、中学校の裏手にあるランニングロードに敷いている。ロードは8年前、当時の茅ヶ崎公園愛護会会長の願いから、校長先生、おやじの会の協力で作られた。ランニングロードを作るため、学校の外周の木の根っこ取りには1年かかったという。はじめは愛護会が公園で伐採した木のチップを敷いていたが、おやじの会メンバーの一人が竹林を保持するマンションに話に行き、長持ちする竹の確保ができた。愛護会の協力でチップにしている。ランニングロードをみんなで維持していることで、子どもたちの活躍を支えている。

子どもの成長とともに広がるおやじの居場所

中野さんのおやじの会歴の始まりは、子どもの幼稚園で園長先生がおやじの会のメンバーを募集し、手を挙げて参加した時からだ。小学校時代は子どもと一緒に楽しみながら活動できるが、中学校時代は、多感になる子どもとの距離感も難しくなり、活動も周辺整備が中心だ。でも「親が何度も学校に来ると、ほったらかしじゃないと子どもを感じるんです。案子どもは親が活動しているところを見ている」。特に、男親が学校に来ることで雰囲気が出るのだと語る。そして、今あるおやじの会の基盤は、中学校の校長が二代続いて「何をしてもいいよ」と言ってくれたおかげで実現できたと感謝の気持ちを語る。

子どもが卒業しても続けていく理由～それは「みんなの力」～

中野さんは、子どもの中学卒業後1、2年でおやじの会を辞めようと考えていた。でも、学校の環境保全に終わりはなく、手がなければ手伝いたい。何より、成果が見える活動を仲間と楽しむことができる体験は、平日の仕事と切り離して、中野さん自身のリフレッシュになるそう。現在OBメンバー

16名は、現役おやじの会のサポートと地域活動を行っていて、近隣の小学校や地域のお祭りにも出店している。東京下町で自身が昔ながらの人情豊かなおっちゃんネットワークがある商店街近くに住み、よそ者でも仲間に入れてもらった楽しい記憶がある。だから、現役世代がどんどん参加して活動できるよう、新しい人が入りやすい雰囲気づくりをみんなで大事にしているそう。自分たちが年をとっても新たにいろいろな楽しいグループができれば、地域も活性化していく。中野さんは、成長して離れた子どもたちが帰ってきた時にここが「楽しい」と思える場所にしておきたいと話す。中野さんは今、茅ヶ崎中学校OBおやじの会と荏田高校OBおやじの会のメンバーで畑を借りて、作物を作るという新しい活動を始めている。今までの活動の実績を「いやいや、私だけの力ではなく、みんなの力です」と話す。地域の活動をささえる「みんなの力」。中野さんに話を伺って、私もそんな「みんな」になれればいいなと感じた。

information

茅ヶ崎中学校OBおやじの会
e-mail:n009yoshi@gmail.com

(取材・文=市民ライター・杉本育子)

想いをつないで 早渕川を守る

早渕川ファンクラブ

代表 坂口良平さん(56歳)



1.世代の違いを感じさせないメンバー達(左から石田さん、坂口さん、福富さん) 2.道中もゴミ拾いしながら自転車に乗って颯爽とあらわれた坂口さん 3. 清掃活動には小さな参加者も(筆者撮影) 4. 定期清掃により美しく保たれた早渕川親水広場には、見事な桜が咲き地域の方を毎年楽しませている(写真提供: 早渕川ファンクラブ)

地域活動の世代交代が実現

坂口さんは約10年前、転職をきっかけにすみれが丘に引っ越してきた。その頃から、家庭や仕事以外にも活躍できる場所が欲しいと思うようになった。「このまま一生、コンピューターのプログラム開発だけで終わってしまうのか」「死ぬ時に、自信をもって人生を振り返れるか?」など、当時の坂口さんは漠然とした不安を抱えていた。定年後のことも見据えて、なにかしなければと焦燥感が募る。平成30年11月ごろ、ふと思いついて坂口さんは公園のごみを拾ってみた。公園が綺麗になることで、自分の心も洗われていくかのように、すがすがしい気持ちになった。「これだ!」確かな手ごたえを感じ、自発的に清掃活動を始めた。だが、ごみを家に持ち帰ったところ、奥さんを困らせてしまった。家族に迷惑をかけながら活動続けることは難しい。ごみの処分にも悩み、個人での活動に限界を感じた。

そんな時にネットで見つけたのが早渕川ファンクラブのホームページだ。早渕川ファンクラブは、第2、第4日曜日の月2回、早渕川周辺の清掃活動を行っている。初めて清掃活動に参加した日、連絡せずに直接集合場所に行ってみた。当代表だった福富洋一郎さんは突然の参加に驚いた顔を

していたが、活動を続けていくうちに坂口さんの熱心さが伝わり、徐々に打ち解けていった。

感謝の気持ちで繋がる世代

早渕川ファンクラブの主要メンバーは、坂口さんを除いて全員70歳代。坂口さんが加わる前は、メンバーの高齢化により、25年以上の歴史ある団体の存続が危ぶまれる状況だった。後継者不足に悩んでいた早渕川ファンクラブにとって、現役世代の坂口さんは希望の光だ。「清掃活動をスムーズにできるのは、福富さんたちが仕組みをきちんとしてくださったおかげ。行政がゴミを回収する流れや、地域の方々とつながりを自分で一から構築しようとしたら大変だった。」と、坂口さんは明るい表情で感謝の言葉を口にした。福富さんも「坂口さんが入ってくれて良かったよ!平日は仕事だから、そこはこちらでフォローするということで、代表になってもらったんだ」と、満面の笑顔だ。互いに感謝の気持ちがあれば、世代の違いなど、たいしたことはないのだと感じさせられた。

豊かな人生

平日は会社員、休日は地域活動と、忙しくないのか気になったが、それどころか心身ともにリフレッ

シュされ、自然にも感謝されているような気持ちになり、いいこと尽くめだそう。一生続けたい活動だと語っていた。早渕川ファンクラブの活動が、坂口さんの人生を豊かにしているのは間違いない。「地域の方にもぜひ活動に参加して欲しい。特に子どもたちに問題意識を持ってもらい、将来、川や海を綺麗にしてくれたら嬉しい」と坂口さん。大人たちが見本となる行動をとれば、子どもたちにも良い影響がある。坂口さんの言葉に、子どもたちのより良い未来を創るのは、今の大人たちの役目だと実感させられた。

information

早渕川ファンクラブ

e-mail: leosgucci@gmail.com
URL: <https://www.facebook.com/groups/hayabuchi.river/>
Twitter: @HayabuchiR

(取材・文=市民ライター・市川佳子)

自分が仕事をする街 中川を盛り上げたい

中川駅前商業地区振興会

会長 馬場武志さん(42歳)



都筑区中川で、平日は郵便局長の仕事、週末は中川駅前商業地区振興会の会長として地域でも活躍する馬場武志さん。どんな思いで活動されているのだろうか。お話を伺った。

1.お話を伺った馬場武志さん、職場である中川駅前郵便局前にて 2.「中川・新春もちつき大会」は、餅つきやお正月遊び、手品やアフリカの民族打楽器演奏など、イベント盛りだくさん 3.「中川・新春もちつき大会」は、大勢の来場者でにぎわった

地域を盛り上げたい

馬場さんは、中川駅前郵便局の局長。その傍ら、中川駅前商業地区振興会の会長としても活躍されている。同振興会は、地元34の事業者が集まる地域団体で、中川で行われる地域イベントの協賛や協力、企画をすることもある。郵便局長の仕事は多岐に渡り、郵便業務の他に、近隣の小学校にむき「お金の授業」を年に約3~4回、ほかにも「手紙の書き方授業」の出前授業を行っている。インターネットやSNSで思いを伝えることが日常的になった今でも、大切な場面では手書きの手紙の書き方を知っているに役に立つ。テキストを読むだけでなく、いかにお子さんに興味を持ってもらえるか工夫を重ね、出前授業は都筑区で3年目になる。馬場さんの職場は、地元密着の郵便局ということもあり、局長の地域貢献活動への理解があるそうだ。とはいえ、郵便局の仕事は基本的に平日。中川駅前の清掃活動やお祭りの主催者として活動するのはプライベートの週末だ。

やってみたいことは口に出してみる

いままでの中川駅前商業地区振興会はイベント協賛が多かったが、会長が馬場さんになってから

は振興会がイベントを企画・主催するようになった。令和2年1月に行われた「中川・新春もちつき大会」は、中川駅前商業地区振興会とNPO法人ぐるっと緑道で主催した。この日のために準備し、中川駅前商業地区振興会会長として、イベントの進行管理や来場者への声掛けを行った。このイベントでは近隣中学のボランティア部の学生を含めた82名の地域住民がスタッフとして参加した。来場者はつきたての餅や豚汁を味わい、手品やアフリカの民族打楽器演奏を楽しむなど賑わった。「これからも地域の方の要望も取り入れ、喜んでもらえるイベントを実現していきたい」と言う。具体化への相談先は、都筑区役所や関係各所。区役所は実際に門をたたいて頼ってみると、じっくり話を聞いてくれて「地域でこんなことをしたい」を叶えるために一緒に考え実現するための協力をしてくれるのだそう。今は地域の方からのリクエストで、交通安全講座などが企画として挙がっている。馬場さんは「地域活動が巡り巡って、仕事にも良い影響をもたらしているんですよ」と話す。「上の年代の方からは、豊富な人生経験や知恵を分けてもらえますし、中川の街を歩いていると地域の方から気軽に声をかけてもらえます」

周りに協力してもらって叶えられた、楽しさの拡がり

馬場さんに取材をして筆者が感じたのは、馬場さんが周りの人と一緒に自然体で楽しんでいるということだ。中川駅前商業地区振興会では、今後も地域のリクエストを受けて中川でイベントを企画する。「地元でこんなことをやってほしい」というアイデアがある人は、ぜひ中川駅前郵便局へ。地域を盛り上げるアイデアを出すのも地域活動だ。小さな一歩、ここで踏み出してみませんか。

information

中川駅前商業地区振興会

住所: 横浜市都筑区中川1-10-33
中川駅前郵便局内
TEL: 045-912-6421
FAX: 045-912-0565
URL: <https://nakagawaekimae.com/>

(取材・文・写真=市民ライター・梶原あやめ)

大切な仲間がいる。 週末は地域で楽しむ 牛久保ライフ

牛久保公園愛護会

大熊保幸さん(58歳)



1左から大熊さん、金治さん、黒田さん 2.お話を伺った大熊さん。家族との時間も大切にしています 3. 次の花のための花壇の手入れ

公園の除草や落ち葉掃き、花壇の管理などの美化活動や、自然体験を通じた地域交流活動を行なっている牛久保公園愛護会。愛護会を立ち上げたメンバーのひとり、大熊さんにボランティア活動の魅力についてお話を伺った。

愛護会発、魅力的な地域活動

令和元年12月現在、愛護会のメンバーは18人。定例作業は第2土曜日の午前中で、花壇づくりやごみを拾いながらのパトロールを行っている。他にお祭りで模擬店を出したり、ピクニックを企画したり、夏季ボランティアを受け入れたり。時には地域貢献、時には思いっきり遊び、時には学習...と、その活動は幅広い。試行錯誤中だが、横浜市資源循環局の指導で腐葉土を作る落ち葉ハウス作りにも取り組んでいる。

俺たちでやるか!

平成23年、1年間だけ、牛久保公園で都筑冒険遊び場ままるプレイパークと中川西地区元気づくり協議会主催の遊びの場・プレイパークが開催された。当時、大熊さんは公園に隣接する牛久保小学校のPTA会長としてプレイパークに参加し、子どもと一緒に自然の中で遊びを体験した。その時、大人も子どもも楽しめるこのプレイパークを「このまま終わらせたくない」と思ったそうだ。しかし、当時の公園はうっそうとした木々で先も見通せない状態。子どもが公園を通るのも危ないと感じられるほど手入れがなされていなかった。そこで、平成24年、牛久保小学校おやじの会の有志3人が公

園の面倒を見ようと愛護会を立ち上げた。最初に手掛けたのが、小学校西門前の公園の整備。自身の子どもも加わって一緒に花壇をつくった。花壇の設置で学校周辺は明るくなった。

身近な信頼できる仲間と一緒に

もともと社交的で仲間づくりが好きという大熊さんだが、都筑区に越してくるまでは住んでいる地域に目を向けることはあまりなかったそうだ。転機は子どもが小学校入学前、牛久保に引っ越してきたこと。緑が多く自然豊かなセンター北駅周辺は、大阪府門真市という自然の少ない過密地域で育った大熊さんにとって、とてもワクワクする場所だった。「我が子と一緒に遊ぼう!おやじ仲間でおやじの会」という小学校のおやじの会に参加すると、地域でのネットワークが広がった。PTA活動や地域活動にも積極的に参加するようになり、大熊さんはいつの間にか中心的な存在になっていた。大熊さんにとっておやじの会は自宅でも職場でもない居場所となったが、それは子どもが学校を卒業するまでのこと。愛護会なら定年退職後も仲間と一緒にずっと続けられる。地域活動が自分の居場所となったのだ。

大熊さんは現在単身赴任中だが、毎週末に都筑区の自宅に帰っている。それは家族に会うのが楽しみだから、住んでいる場所が好きだから、そして、大切に思う身近な仲間がいるからなのだ。愛護会ではメンバーそれぞれが得意分野で頑張っている。大熊さんは会計を担当し、PTA活動・おやじの会活動で知り合った人脈を活かしたイベントも企画している。プレイパークを作りたいという若いお母さんたちも愛護会に加わり、土日だけでなく平日に公園を見守る人ができ、公園で子どもの声が聞こえるようになった。3人で始めた愛護会の活動は、少しずつ地域の輪を広げている。

information

牛久保公園愛護会

e-mail: ushikubo_park_aigokai@googlegroups.com

(取材・文=市民ライター)

農と精神障害者と 共に歩む

NPO法人都筑ハーベストの会

理事長 佐々木秀夫さん(51歳)



1.池辺町の農地で菊芋掘り 2.理事長の佐々木さん。好きな野菜はズッキーニ 3. みそ作り教室

精神障害者の心の健康の回復と、安心して暮らせる地域社会の実現を、農を通じて目指す「都筑ハーベストの会」。毎年1月に開催される「みそ作り教室」では、一般参加者と障害当事者が一緒に、ゆでた大豆から無添加のみそを作り、昨年作ったみそを使ったみそ汁を試食する。メインイベントは、メンバーによるギター演奏と歌のパフォーマンス!『手前みそのうた』の楽しいメロディーに合わせて、参加者・メンバー・スタッフの手拍子で大いに盛り上がる。その様子をほほえましく見つめる都筑ハーベストの会の理事長・佐々木秀夫さんに話を伺った。

精神障害に関する本や人との出会い平成7年、社会人4年目だった佐々木さんは、『精神医学と文化人類学』(大平健・町沢静夫・編、金剛出版、昭和63年)という本と出会った。薬に頼るのではなく、患者の話の中から症状を根本的に回復させることを実践した精神科医の大平さんの本を読んでいくうちに、「自分も精神科医になりたい」と思ったという佐々木さん。医学部編入は叶わなかったが、新たな道を拓くことになった。そのころ、統合失調症の人に接してみたいと思い、横浜駅西口のボランティアセンターへ行って、小規模作業所を紹介してもらった。そこで人間性あふれた作業所の代表やメンバー(精神障害者)との出会いがきっかけとなり、平成13年に都筑ハーベストの会を立ち上げた。港北区在住の佐々木さんが都筑区を選んだのは、都筑区には広大な農地が広がり、また当時、都筑区には作業所が一か所しかなかったので立ち上げやすいだろう、と思ったからだ。

農作業で人は変わる

子どもの頃に泥だらけになって遊んだ経験から、作業所での活動を農業や自然に触れられるものにしたと、まずは仲町台にある農協の実習園の

一角を借りて畑を始めた。現在の池辺町にある農地を借りるのは難航した。「民生委員に紹介してもらった地元の町内会の方の後押しがあって、ようやく借りることができた」と、理想に向けて諦めない粘りで地域の信頼を勝ち取ってきた。畑で育てた野菜は、金曜日に区役所ロビーやセンター南駅構内で、メンバーらが販売している。ある日、精神障害者の30代の男性と母親が会を訪ねてきた。男性は終始硬直して一言も話さない。親子で畑に通い始め、徐々に一人で通えるようになり、会話や笑顔も出てくるようになった。その後、彼は農作業の体力作りのためと水泳も始め、やがて別の職を見つけて作業所を出ていった。そんな障害者の変化に関わることで、佐々木さん自身もエネルギーをもらっている。

転機は自分から求める

佐々木さんは、平日はサラリーマンをしながらNPOの代表として、そして家庭を持つ人として、何足ものわらじを履きながら多忙な日々を送る。彼をそこまで駆り立てるものは何か。「困難を抱えている人は、とても深く物事を考えていたりする。これが生きづらさや病状につながるが、こういう生き方をしている人と一緒にいたいな、と思う。この

活動がなければ、つまらない人生になっていた」と話す佐々木さん。障害のある人に寄り添いたいという揺るぎない想いが伝わってきた。佐々木さんは、「社会問題解決のために自身の持っているものを活かして、飛び込んでいき、いろんなネットワークとつながればいい」と、現役世代にエールを送る。例えば福祉の現場では、財務やマネージメント・HP作成などの知識や技術が必要とされている。都筑ハーベストの会にいる40名ほどのスタッフの中で男性は数名だけだ。現役世代の男性の地域での多大な活躍を期待したい。

information

NPO法人 都筑ハーベストの会

住所: 横浜市都筑区茅ヶ崎東4-13-40

TEL: 045-947-0082

FAX: 045-947-0088

URL: http://www.tuduki.jp

(取材・文・写真=市民ライター・石野恵子)